

家庭分野 事例2
キーワード 「知識・技能」の評価

内容のまとめ 「C 消費生活・環境」(1)「金銭の管理と購入」
(2)「消費者の権利と責任」

題材名 自立した消費者となるために

1 題材の目標

(1)購入方法や支払い方法の特徴, 計画的な金銭管理の必要性, 売買契約の仕組み, 消費者被害の背景とその対応, 消費者の基本的な権利と責任, 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに, 物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。

(2) 物資・サービスの選択・購入, 自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し, 解決策を構想し, 実践を評価・改善し, 考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

(3) よりよい生活の実現に向けて, 金銭の管理と購入, 消費者の権利と責任について, 課題の解決に主体的に取り組んだり, 振り返って改善したりして, 生活を工夫し創造し, 実践しようとする。



「指導と評価の一体化」
のための学習評価に関
する参考資料

2 指導と評価の計画

題材計画を立てる際に、どの時間に3観点の何を評価をしていくのか、また、評価規準について、考えていきましょう。

小題材	時間	ねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
消費生活	1	○自分や家族の消費生活について問題を見だし、課題を設定することができる		①物資・サービスの選択・購入，自立した消費者としての消費行動について問題を見だし課題を設定している。 ・学習カード	
計画的な支払い方法に応じた金銭管理	2	○多様化した購入方法や支払い方法の特徴について理解することができる。	① 購入方法や支払い方法の特徴について理解している。 ・学習カード	指導に生かす評価	①金銭の管理と購入，消費者の権利と責任について，課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・ポートフォリオ
	3	○多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理の必要性について理解することができる。	② 計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・学習カード ①(支払い方法)	記録に残す評価	

小 題 材	時 間	ねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
物資・サービスの選択・購入	4	○物資・サービスの選択に必要な情報を適切に収集・整理し、情報を活用して購入について考え、工夫することができる。	<p>③物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理について理解しているとともに、収集・整理が適切にできる。 ・学習カード</p>	<p>②物資・サービスの選択・購入，自立した消費者としての消費行動について考え，工夫している。 ・学習カード</p>	<p>②金銭の管理と購入，消費者の権利と責任について，課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・ポートフォリオ</p>
	5	○売買契約の仕組み，消費者被害の背景とその対応について理解することができる。	<p>④ 売買契約の仕組み，消費者被害の背景とその対応について理解している。 ・学習カード</p>	<p>③物資・サービスの選択・購入，自立した消費者としての消費行動について，実践を評価したり，改善したりしている。 ・学習カード</p>	
	6 7	○消費者の基本的な権利と責任について理解することができる。	<p>⑤ 消費者の基本的な権利と責任について理解している。 ・学習カード ※ペーパーテスト</p>		

記録に残す評価

小 題 材	時 間	ねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
消費者の責任ある消費行動	8	○自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解することができる。	⑥ 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 ・学習カード	④物資・サービスの選択・購入, 自立した消費者としての消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について, 考察したことを論理的に表現している。 ・行動観察 ・学習カード	③よりよい消費生活の実現に向けて, 金銭の管理と購入, 消費者の権利と責任について工夫し創造し, 実践しようとしている。 ・ポートフォリオ
	9	○自立した消費者としての責任ある消費行動を考え, 工夫することができる。			

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 	<p>物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>

4 「知識・技能」の評価の例

(1) 3時間目 指導に生かす評価

多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理の必要性について、理解しているかを学習カードの記載から評価します。

〈A・Bと評価される記述例〉

評価	生徒の記述例	評価の視点
「おおむね満足できる状況」 B	テレビをクレジットカードで購入すると、翌月以降はその支払いがあるので、ほしい物がある場合は、家族みんなで相談して、優先順位をつけたり、支払い方法を考えたりして、計画的な金銭管理をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・支払方法の特徴を理解している ・支払方法を選んだ理由を具体的に記述している。
「十分満足できる」状況 A	テレビをクレジットカードの分割払いで購入すると、翌月以降はその支払いがあるので、優先順位をつけたり、銀行口座の残高をこまめに確認したりしてもらうことを家族にお願いするとよいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な金銭管理の必要性だけでなく、翌月以降の具体的な金銭管理の方法について、記述している。

「努力を要する」状況(C)の評価になる前に、(C)の評価がつきそうな児童に適切な指導(手立て)を行います。

「知識・技能」の評価

- 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である

- ・「知識・理解」(各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価)
 - ・「技能」(各教科等において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかを評価)
- においても重視。

<評価の工夫(例)>

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・児童生徒に文章により説明をさせる。
 - ・(各教科等の内容の特質に応じて、)観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

「おおむね満足できる状況」B に満たない児童への手立て

クレジット払いにした場合、翌月以降の金銭管理について次のような記載をした生徒に対しての手立て

○クレジット払いは、次の月にお金が引き落とされるので、気を付けたほうが良い。

「努力を要する」状況(c)の**評価になる前に**、
(c)の評価がつきそうな生徒に対しての手立て

- ・模擬家族の事例において、家計の収支のバランスが崩れることに気付かせる。
- ・本当に必要なものと優先順位や支払い方法について一緒に確認する。
- ・計画的な金銭管理の必要性に気付かせるようにする。



4 「知識・技能」の評価の例 (2) 7時間目

模擬家族の消費者被害の事例を通して、消費者の基本的な権利と責任について理解することができる。

※返品ができないという問題点について、消費者としての責任を果たすための行動について
〈A・Bと評価される記述例〉

評価	生徒の記述例	評価の視点
「おおむね満足できる」状況 B	本当に返品できないのか、もう一度画面で返品の決まりを確認して、通信販売の業者に連絡する。	事例における問題点に関わる消費者の権利と責任や、その責任を果たすための行動について適切に記述している。
「十分満足できる」状況 A	・・・返品をあきらめてしまうと、消費者被害が広がる原因になるので、消費生活センターに相談する。責任を果たすことで、消費者被害を防ぐことができる。	主張し行動する責任を果たすために行動に加え、その責任を行使しなかった場合の影響についても記述している

「努力を要する」状況(C)の評価になる前に、(C)の評価がつきそうな児童に適切な指導(手立て)を行います。

「努力を要する」状況(c)の**評価になる前に**, (c)の評価がつき
そうな生徒には次のような手立てが考えられる

- ・学習を振り返らせる。
- ・具体的な事例を示し, どのような消費者の権利と責任と
関わっているかについて確認する。



5 移行期間最終年度の実践課題

- ・3年間を見通した指導計画の作成
- ・育成する資質・能力の明確化(小・中学校の系統性)
- ・新しい内容を踏まえた題材の開発
- ・資質・能力の育成に向けた授業づくり
- ・家庭・地位との連携
- ・指導と評価の一体化

準備を進めていきましょう